



Art for Life

NPO 法人ライフスキル研究所
<http://lifeskill-npo.org/>
<http://lifeskill.blog.so-net.ne.jp/>

ライフスキル研究所だより Vol.40

人間としての基礎つくる らくがき遊びの大切さ

2011年1月1日の朝日新聞によると、同社が「教育」をテーマに実施した世論調査で、9割近くの方が教育予算を充実させるべきだと考え、「税負担が増えてもよい」との意見も3割あり、子どもの将来を明るくするためには、経済などの社会のしくみの改善や、家庭や家族がしっかりすることが大事だという考えが合わせて9割近くに上った、としている。「子どもの未来守りたい」…という見出しは私の関心事であり、熱心に読んだ。今、社会には少しずつ、子どもの生きづらさや未来への危機感という共通認識はできつつあるように思う。調査でも、子育てを社会全体が支援すべきだという立場に立つ意見が多く、そのことは現政権の認識とも一致し、これからの子育ての方向を示すものと思えた。

私は32年間、絵を通して子どもと関わってきたが、この15年ほどは特に心が休まらない。子どもの問題は、個別な親の努力やがんばりでは解決しないところにきている。外で遊び、ゲームに熱中する子どもの姿を見ていると、一見問題は見えにくい。しかし、絵などの表現世界から見ると、20~30年前と比べて線の細さ、構図のまとまりのなさが顕著であり、そこに彼らの自我の脆弱さが見

えてくるのだ。

近年、子どもと接していて感じるのは、彼らの極端な傷つきやすさと被害意識の強さである。当然に制止されるべき問題行動(他人を傷つけるような言葉、危険な行為など)を注意した場合でも、「叱られた」という被害意識ばかりが膨らみ、叱られた理由には考えが及ばない。叱られたら腹が立って素直になれないのは昔の子も同じだったが、昔はたいてい自分の非を自覚していた。今の子にはそれがなく、ただ叱られたことへの被害意識だけが残る。他者との関係性に何か根本的な欠如を感じる。では、自己主張はするかといえば、そうでもない。ワークショップなどで意見や感想を求めると、拒否ともいえる強い躊躇をみせる。仲間うちで浮いた存在にならないよう、言いたいことも言わず空気を読んで同調するのに必死だ。他人を慮るでもなく自己表現するでもない—そんな子どもの姿に、私は本質的な自我の弱さがもたらす未来への危惧を感じずにおれないのである。

自分を尊重することと、他人を尊重することは表裏一体だ。だからこそ、子どもたちにはもっと自分を見つめ、自分を表現してほしい。その起点として、幼児期の「らくがき遊び」の大切さを強調したい。



実は、「らくがき」が子どもの生活から消えかかっているのをご存じだろうか?クレヨンや絵の具が部屋を汚すため、お絵かきは家庭であまり歓迎されない。それでも昔はあちこちでらくがきをして遊んだものだが、今は幼稚園や学校に入るまで、本当にらくがきもお絵かきもせずきってしまう子どもが増えているのだ。その弊害は描画表現力の低下だけにとどまらないだろう。

冒頭の調査からも分かるように、今後、子育ての社会化は進んでいくだろう。そこで、表現としての自由画・らくがき画を子どもの生育に必要な不可欠な要素としてとらえ、育む仕組みを社会的に作っていくことの必要性を訴えたい。保健所などで行う2~3歳児検診の機会に、若い両親に「らくがき」の大切さや習慣づくりのノウハウを伝える講座やワークショップを組み込むことができれば、少しずつ子どもの生活にらくがきが復活・定着していくだろう。その一歩として一昨年、家庭や学校でできるアートワークを伝える冊子を制作した(裏面に紹介)。

幼少期の無意味に見える表現行動は、気持ちを吐露し、意志を伝える機会を子どもたちに与えている。そのことを少しでも多くの人々に伝えるため、関係機関と連携・協力できる仕組みを作りたいと考えている。

